

地元の応援や郷土愛に支えられ

— 第8回能代おもしろ映画祭り開催 —

川添 能夫

30日、12月1日に開かれる映画祭りは、2017年から始め今年が8回目になります。国立映画アーカイブの優秀映画35フィルム3〜4本立て、特別企画映画と関連催しの形が定着しております。アーカイブ作品は皆さんの希望アンケートをもとに選択し、企画ものとしてはこれまで音懐かしい活弁を女性活弁士で楽しむ、認知症テーマの福祉映画と音楽療法実演の組み合わせ、吉永小百合の青春映画と会場全員での青春ソングの合唱など毎年趣

文化

皆さんの人生で記憶に残る映画をいくつか挙げてみてください。私は考えるだけでうれしくなります。小学時代の『紅孔雀』『里見八犬伝』『富士に立つ影』、学校参観映画の『裸の大将』、中学時代の『ベン・ハー』『ブルーハワイ』『人間の条件』、高校時代の『武器なき闘い』『潮騒』『愛と死を見つめて』そして『七人の侍』をはじめ40年以上にわたりますべてが面白い黒澤明作品の数々。

感受性の鋭い少青年期の1年はすべてが新鮮で、社会人の10年の生活にも匹敵すると言があります。何と多くの映画を楽しみ、元気づけられ、社会への目を開かされたことでしょうか。印象は今もって鮮烈です。その後も映画館での必ず眠りこんだオールナイト、『緋牡丹博徒』の藤純子の殴り込みには観客みんなで「それ行け!」と声を掛けたことも懐かしい記憶です。

ただ映画祭りの諸準備や実施となると、最近の市民活動にもつながりますが、活動者や協力者の高齢化に参加者の高齢化もあり、徐々に運営が厳しくなっていることが実感されます。仮に企画が成就したとしても、チケットをさばく必要があります。何人かの映画好きの方、この映画企画に意義を見いだしていただいている方にチラシ配布でのPRとチケットの販売をお

願っております。今回は2日間とも充実したプログラムですが、いつも開催当日まで予断を許さない状況が続きます。また受付や会場運営の方々の協力にもいつも感謝です。

そのようなことを考えるといささか躊躇もあつたのですが、今年はいくつかの朗報がありました。能代出身の映画関係者お二人が当初から協力を表明してくれました。加藤正人さんは、この映画祭りは意義あるものであり全面的に協力したいと、映画脚本家として1日目の講演『私と映画』、2日目の講演『黒澤明作品の魅力』を提案していただきました。また脚本を書かれた世評の高い『破戒』の映画会社からの借り入れについ

ての労をとっていただきました。また笠井清さんも自らプロデュースしたショートドラマ『秋田県能代市で生まれて』春・夏・秋・冬の各編を一本にDVD化しての上映に加えて、舞台あいさつや能代で公募・選出されたTatsuyaさんの主題歌披露も予定しております。チラシには「愛する故郷への二人の映画プレゼン」と惹句を入れました。

また黒澤映画の中でアーカイブの上映作品リストに無い『生きる』が、昨年からリストに挙がりました。これは能代からの数年継続での上映希望によるものと思われまふ。黒澤映画のベスト3に入る作品と言われ、昨年英国において『生

きる LIVING』という題でリメイクされましたが、黒澤には及びませんが、今年世界の黒澤の個性ある3作品、また郷里出身映画人の強い想いのある映画企画です。一般の人はこちらへ、地域の子どもたちにもぜひ見せたいと高校生以下を無料としました。子どもやお孫さんにもぜひお勧めいただき、また一緒にの来場でも楽しんでいただければ幸いです。

◇ ◇ 能代おもしろ映画祭りは、30日、12月1日に能代市海詠坂の能代山本広域交流センターで開かれる。30日は午前10時30分から笠井清プロデュース『秋田県能

代市で生まれて』の舞台あいさつ付き上映。午後1時15分から加藤正人さんが「私と映画」と題し講演、同2時25分から『破戒』を上映する。入場料は前売り800円(当日券1千円、高校生以下無料)。

1日は午前10時から『用心棒』、午後1時40分から『生きる』、同4時15分から『天国と地獄』を上映。加藤さんの講演会(午後1時)も予定されている。入場料は1本500円、2本以上1千円(高校生以下無料、入れ替りあり)。

チケットは市文化会館やいとく能代ショッピングセンターなどで販売している。問い合わせは事務局(☎0800-4131-3634)へ。